

問題 1ー5 次の文章を読んで、後の問にこたえなさい。

ヘルシンキ・ヴァンダー空港には、現地時間の朝五時過ぎという早朝に到着した。そこからスーツケースを受け取ったり税関を通ったりと時間は経過したが、それでも空港の落ち着けるスペースで行きたい場所を探してみたりと過ごしてもまだ朝の七時過ぎ。どこかのお店がやっているような時間帯でもないが、まずはヘルシンキ駅の周辺を観て廻ろうと地下鉄に乗って移動することにした。

地下鉄のホームに移動する際にちよつとした出来事があった。エスカレーターで降って行ったのだが、二つ目のエスカレーターが動いていない。

「これ、どうやって移動するんだ？乗る時に自動で動き出すシステム・でもないか。どこかにスイッチがあるわけでもないし・・・」私と友人はホームに降りて行けない状態に困っていた。

ア 後ろから来た二人組は、その止まっているエスカレーターを見ても、なんの躊躇もなく普通に歩いて降りていくのだ。

「あ！そういうものなんだ」私たちは二人で笑いながら同じように歩いて降りて行った。

日本だと施設やお店などでエスカレーターが止まっている状態に出会うこと自体がほとんどないし、仮に臨時の点検などの何らかの事情で止まっていたとしたら「現在こちらのエスカレーターは点検のため停止しております。お近くの階段をご利用ください」などの張り紙や掲示がありそうだ。しかもそうした張り紙で説明されていないと、エスカレーターが急に動きだしたらと思うと、歩いて行くのはちよつと怖い気もする。・日本とフィンランドの比較論のような具体例が続く文章となっている。

だが、フィンランドではそんなお知らせはどこにも掲示されていないし、他の方々の様子を見るに普通のことだと思われる。その後のショッピングモールでも止まっているエスカレーターに出会ったが、やはり人々は普通に歩いて登っていたし、私たちも二度目のせいもあってまるで慣れたかのようにエスカレーターを歩いた。ちなみに、エスカレーターの近くで「乗り降りの際には足元にご注意ください。乗る時には手すりにつかまり、黄色い線の内側に・・・」のような注意喚起アナウンスは流れていない。

ヘルシンキ市内の移動には、地下鉄以外にもバスもあるし路面電車もあるので、近場の目的地にはとてもスムーズに移動できる。これらの公共交通機関は運営が同じなので、スマホに入れたアプリの時間制パスの有効期限内なら自由に乗り降りできる便利なシステムだ。しかも改札もなく、そのアプリの画面を機械に読み込ませたりすることもないのでとても楽に移動できる。

フィンランドは約一割の人がスウェーデン語なので、公共交通機関では次の駅や停留所のアナウンスはフィンランド語の後にスウェーデン語。英語のアナウンスはあまりない。公共施設やショッピング施設の表示もフィンランド語とスウェーデン語で、もう一個あれば英語という感じ。

これも日本の場合には特に羽田や成田という国際空港周辺の電車の場合、アナウンスが日本語・英語・中国語・韓国語と四つ流れている。これは国際化しているとも親切心とも言えそうだが「次の駅はどこです」くらいの英語は、ゆっくり目のアナウンスで流せばいいどここの国の人でもわかるように思う。逆にこんなに沢山の言語が流れるとつねに車内アナウンスがある状態で少し落ち着かない。さらにいうと、フィ

解答と解説

ンランドでは地下鉄のホームに電車が入ってくる時に「危ないですから黄色い線の内側までお下がりください」のようなアナウンスは流れないし、そもそもホームドアなる安全装置は設置されていない。

日本にはこうした掲示やアナウンスが多すぎなのかもしれないと、フィンランドの旅行中に思った。日本でのエスカレーター付近の「足元にお気をつけください。please watch your step」のアナウンスは、国際化や親切心というよりも、むしろおせっかいとか過保護に近いような気がしてくる。

いや、もう一歩考え方を進めると「アナウンスで注意喚起しているんだから、転んだらあなた自身の責任であり施設のせいではありません」とあらかじめ予防線を張っているようにも感じる。

それは「次の駅は」の イ 化も似たようなもので「これだけ多くの言語で言っているのだから、わからなかったと質問しないでね」とあらかじめ釘を刺しているようなものだろう。

こうした現象は日本の商業施設のあちこちで頻繁に見かける。自動ドアには「注意 caution」の表記があり、エレベーターのドアには「手を挟まないように十分ご注意ください」のシールが。さらに駐車場には「駐車場内での盗難や事故に関しては、当店は一切の責任を負いません」などと掲示されている。

いったいいつから余計なお世話的な予防線掲示やアナウンスが増えたのだろうか。きっと ウ に日本のどこかで事故があり、それ以来安全性周知のためにこれらが常態化して今に至っているということなのだろう。特に近年急速に設置が進んでいる電車のホームドアはその最たるものだと言える。

もちろんホームドアがあることの心理的な安心感はあるし、優秀な安全装置だと思う。だが、電車が入ってくる時には危険なので少し下がるものだし、注意書きが無くても誰も自動ドアには手をはさまない。エスカレーターに乗る際には足元に気をつけて手すりにつかまるのは小さな子どもやっている当然のこと。商業施設の駐車場で車同士の接触があったとしても、それは商業施設のせいではなく徐行でなおかつ左右の確認が不十分な運転者のミスである。

そんな小学生でも理解できることをわざわざ予防線の掲示をするのは、最初はわかりやすさのための親切心だったのかもしれない。それが時を経て次第に過保護的な掲示やアナウンスになっていって、現在は予防線のように何でもあらかじめ言っておけばいいような風潮になっていったとしたら、やがてもっと窮屈な感じになってはいかないのだろうか。

「お買い物の際は、お会計を済ませてからお店を出てください」

「お店の商品を見て回る際には、走ったりせずにゆっくりお歩きください」

こんな掲示が現実になる日は、すぐそこまで来ているのかもしれない。

(威堰 杏「秀逸なゼクエント」より)

問一 一次の選択肢のうち、本文と合っていないものはどれか。

- ◎ー フィンランドでは、公共交通機関のアナウンスは母国語のみである。
- 2 日本の国際空港周辺の電車のアナウンスは、英語だけではなくアジア諸国の言語も流れる。
- 3 フィンランドでは多くの人がフィンランド語を使っている。
- 4 注意喚起のアナウンスはフィンランドよりも日本が多い。

問二 この文章で筆者の主張は次の選択肢のうちどれか。

1 フィンランドではエスカレーターが止まっていることがあるが、それは日本のようにきめ細かなメンテナンスのシステムが確立できていないのが原因であり、もっとシステムをアップデートしていく必要がある。 *本文と全く合っていない。*

2 フィンランドの公共交通機関の乗降システムは、料金もスマホのアプリで決済でき、駅には改札も無いような便利で進歩的なシステムであり、日本もこのような先進的なシステムを積極的に取り入れていくべきである。 *前半は本文と合っているが、後半が合っていない。また具体例である。*

◎3 日本の公共機関や商業施設のアナウンスや掲示は、多くの言語を使用するなど丁寧で親切心があるように思われているが、近年多くなる傾向にあり、行き過ぎた丁寧さが心理的な負担感を生じることになると危惧される。

4 日本では注意喚起の掲示やアナウンスが多く、さらには電車のホームドアのようなシステムも普及してきているが、これらは安全性重視のためには必要なものであり、フィンランドの社会よりかなり優れていると言える。 *後半が本文と合っていない。*

解答と解説

問三 空欄 ア ・ イ ・ ウ に入る言葉を選べ。

ア (1) なぜなら

◎ (2) ところが *空欄の前後の文脈でわかる。*

(3) そして

(4) たとえば

イ (1) 問題

(2) 単一言語

(3) 丁寧

◎ (4) 多言語 *直後に これだけ多くの言語 とある。*

ウ (1) 現在

(2) 非常

(3) 膨大

◎ (4) 過去 *これも空欄の後の話からわかる。*